

中間報告書(第3回)

ロンドン芸術大学博士課程

山本浩貴

1. 学業面での成果

2016年3月5日に、日本の高崎経済大学で開催された文化政策学会にて口頭発表を行いました。「修史家としてのアーティスト：2000年以降の日本のアート・プロジェクトにおける新しいアプローチに関する一考察」というタイトルで、日本の現代アートの新しい役割について、自身のプロジェクトも例に挙げながら、約30分間の発表を行いました。その後は、活発な質疑応答がなされ、行政や企業との関わりや欧米の実践との類似点と相違点などについて意見交換をしました。日本の学会での発表は初めてでしたので、どのようなものかと少し緊張しましたが、関連分野の研究者と知り合うことができ、たいへん有意義な機会となりました。

その後アメリカに渡り、3月19日には、ボストンのハーバード大学にて、比較文学学会(ACLA)での発表を行いました。香港理工大学で助教授を勤める友人から招待され、1980年代の英国における黒人アーティストによる映画と、1990年以降の日本における「在日コリアン」の問題をテーマにしたドキュメンタリー映画を比較考察する発表を行いました。同一パネルには、香港・中国・台湾・イギリスから若手の研究者が参加しており、彼らの新しい視点やユニークなアプローチは大きな刺激になりました。



ACLA2016にてパネリストの友人らと(手前が筆者)

2016年4月3日には、シアトルにて開催されたアジア学会(AAS)の年次大会にて発表を行いました。この学会はアジアに関する研究を行う人々が集う最も大きな学会のひとつであり、そのような場で自らの研究を発表し、同世代や先輩の優秀な研究者の方々と意見交換ができることはとても大きな

喜びでした。この学会では、主に私の博士課程での研究の概要とその展望について発表しました。また、4月初旬に博士論文の序論にあたる部分を書き上げました。今後、指導教官の先生からの意見を参考にしながら推敲を重ね、来年度末の最終提出に向け、本論と結論部を執筆します。

2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

4月13日に、再びワトフォードのロータリークラブの夕食会に参加させていただきました。私は、3月の日本とアメリカでの学会での成果を発表させていただきました。クラブのみなさまからはロンドンでの生活などについて心配していただき、学業の進み具合についてもあたたかい言葉をかけていただきました。

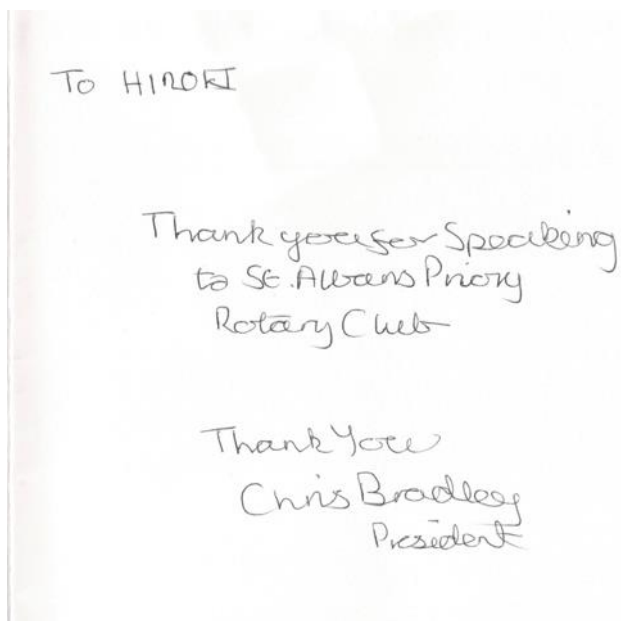
5月4日には、ハートフォードシャー南部に位置するセント・オールバンズ(St Albans)のロータリークラブの朝の会合にて、25分程度の講演をさせていただきました。前日にワトフォード・ロータリークラブのプレジデントであるラビさんのお宅に滞在させていただき、翌朝にセント・オールバンズまで車で向かいました。この講演では、私の研究といままでの作品についてお話をさせていただきました。その後のメンバーのみなさんとの質疑応答のなかで、地元の刑務所で行われているアーティストを招いての更生プログラムの話など、具体的な事例を教えていただきました。



セント・オールバンズ・ロータリークラブでの講演の様子



セント・オールバンズ大聖堂



メンバーを代表してプレジデントのクリス氏からお手紙をいただきました

3. 直面した課題、問題点等

私の研究の性質上、理論と実践のバランスを保つことは重要です。それは、作品の制作やプロジェクトの実行を行いながら、それらを常に理論的な枠組みでも捉えるということです。ここには2種類の困難があります。ひとつは、それらを時間的な制約のなかで最大限こなさなくてはならないという、現実的な困難です。博士課程も後半に入り、論文の執筆やジャーナルへの投稿、学会での発表などと同時に、プロジェクトの企画や実行を同時に行うことの難しさを日々感じています。もうひとつは、概念的な困難です。理論と実践が完全に1対1対応でない以上、不可避免的に存在するアートの「言葉にできない部分」をどのように扱うかという問題です。いままで行ってきた様々なプロジェクトを言葉にして論じていく際に、どのような言葉や論理で(ある程度は)わかりやすい議論をすすめていくかという塩梅に常に難しさとやりがいを感じています。

4. 今後の課題、目標

現在は、博士論文の第4章にあたる部分を執筆しています。この部分は、私のアート・プロジェクトに関する章であり、自らの実践を客観視しつつ、他の実践との相対化を行いつつ論じる必要のある難しい章です。この章の草稿を、7月に韓国に行く前に書き上げることが、この期間の最大の目標のひとつです。

また、7月から9月までの3ヶ月間、ソウル市立美術館での展示のために、韓国に滞在して制作を行います。この滞在制作では、韓国の植民地建築(日本統治時代に建てられた建築物)に関するアート・プロジェクトを行います。そのための準備やリサーチを、論文執筆と並行して入念に行います。